

『日常生活に生きて働く国語の力が付く』授業

国語科では、子どもが「説明文の読み方が分かった」「新聞でまとめる方法は他の教科でも使えそうだ」「他の本でも〇〇〇に注目して読んでみたい」といった思いを持つことができる授業を目指したいものです。そのためには、教材文の内容理解に終始するのではなく、別の文章を読んだときに活用できる力が付く授業を構想することが大切です。授業の中で「話す力・聞く力」「書く力」「読む力」を身に付け、異なる場面、単元等において、螺旋的(らせんてき)・反復的に身に付けたものを使い、各教科等の学習や日常生活でも繰り返し活用することで、国語の力を確かなものにしていきます。

■ ポイント 1

領域・指導事項を絞り、目標を設定する

「国語って何を学んだのか分からない」という子どもの声を聞いたことはありませんか。この単元でどのような力を付けるのかははっきりさせるために、領域・指導事項を絞り、目標を設定することが大切です。その単元で指導するものを「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」から、基本的に1単元1領域で設定します。子どもの実態を踏まえて目標を設定することで、子どもが身に付けた力を実感できるようになります。「自分の言葉で説明できた」「〇〇〇の考えに納得した」という声を聞くことができるようにしていきましょう。なお、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、各領域の指導を通して指導するため、単元の目標は「国語への関心・意欲・態度」「領域の指導事項」と併せて3点セットで設定するようにしましょう。

■ ポイント 2

学んだことが活用できる言語活動を設定する

○子どもが見通しと目的を持ち、主体的に学ぶことができるようにするために、学んだことが活用できる言語活動を設定します。相手や目的、意図などをはっきりさせながら、何のために、どのように言葉を用いればよいのかを子どもが実感できるようにします。そうすることで、国語の力が身に付き、各教科等の学習や日常生活に生かすことができます。

○教師が事前にその言語活動を試行すると、子どもに力が付く活動であるか、子どもの実態に合っているのかを確かめることができます。

■ ポイント 3

目標に合わせて評価し、子ども自身が確かめる

○どのような資質や能力を、いつ、どの場面で、どのような方法で評価するのかを明確にし、目標に対応する形で、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」を評価します。

○子ども自身ができるようになったこと、各教科等の学習や日常生活の中で使える国語の力が身に付いたと実感することが「国語が好き」のきっかけになります。



■ 実践事例(小学校5年生)

単元名 “私の一冊”の登場人物の心情が伝わる朗読をしよう
～登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える～
教材文「大造じいさんとガン」

単元目標

- ・ 登場人物の心情が伝わるように、工夫して朗読しようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- ・ 文章を朗読するために、登場人物の行動や会話、場面についての描写を捉え、内面に描かれた心情を想像する。 (読むことエ)
- ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

本時の目標(4・5/8時)

「大造じいさんとガン」の朗読を通して、登場人物の心情を想像することができる。 (読むことエ)

学 習 活 動

- 本時のめあてを確認する。
- 大造じいさんの心情が表れる朗読をしよう。
- 朗読の仕方とそう読む理由を朗読シートに書き込む。
- 『バシッ。快い羽音一番、一直線に空へ飛び上がりました。らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。「おい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。…」』は、明るい声で歯切れよく読む。春になり、残雪が元通り飛べるようになったことを大造じいさんが喜び、正々堂々と戦おうというすっきりした気持ちだから。会話のところは大きな声で呼びかけるように読む。残雪を英雄として認めたから。
- 朗読と書き込みを交互に行う。
- ・ 声に出してみたら、会話のところはゆっくり読む方がいいと思った。尊敬する気持ちも表すようにする。「バシッ」から「散りました」までは少し速く読んで変化を付けよう。
- 大造じいさんのどのような心情を想像して、どのように読むことを考えたかノートにまとめてみよう。(振り返り)

〇〇のところは、明るくゆっくり読む。理由は、大造じいさんが残雪を英雄と認め、次は正々堂々と戦おうと思ったから。何かすっきりした気持ちで次の戦いを楽しみにしている感じ。

本時で身に付けた力を振り返ります。

第三次は、自分が選んだ一冊を朗読し、第二次で身に付けた力を活用します。

単元名は設定した言語活動が分かるようにします。～〇〇～に指導事項を入れます。

学習指導要領解説の該当箇所の記号を明記し、目標を押さえます。

第二次は教科書の共通の教材「大造じいさんとガン」で朗読の工夫の仕方を考えます。

朗読シートの書き込みで評価します。

単元の流れ

【第一次】

1 教師の朗読を聞く。学習計画を立て、見通しを持つ。“私の一冊”を選び、読み進める。

【第二次】

2・3 教科書の教材文のあらすじ・登場人物・情景描写の工夫を確認する。

4・5

朗読の仕方とそう読む理由を考える。

6 朗読を聞き合う。

【第三次】

7 “私の一冊”(選んだ本)も同様に読み、朗読の仕方とそう読む理由を考える。

8 “私の一冊”の朗読を聞き合う。

『社会生活に生きて働く国語の力が付く』授業

中学校国語科では、小学校の授業の中で、繰り返し学び、日常生活の中で使ってきた「話す力・聞く力」「書く力」「読む力」をさらに「このような考え方もできるのではないか」「今回はこの方法でまとめた方が伝わりやすい」「筆者のこの書き方は効果があるので、私はこのように書こう」等、新たな自分の考えを持つことができる授業を目指したいものです。そのためには、教材文の内容理解に終始するだけでなく、実生活で生きる言語活動を設定し、主体的に学習できるように単元を構想することが大切です。国語科の授業における螺旋的(らせんてき)・反復的な学習をさらに大切に、各教科等の学習や社会生活でも繰り返し活用することで、より確かな国語の力を身に付けるようにしていきます。

ポイント 1

領域・指導事項を絞り、目標を設定する

この単元でどのような力を付けるのかははっきりさせるために、領域・指導事項を絞り、目標を設定することが大切です。その単元で指導するものを「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」から、基本的に1単元1領域で設定します。子どもの実態を踏まえて目標を設定することで、子どもが身に付けた力を実感できるようになります。「もっとやってみたい」「〇〇〇の考えに納得した」という声を聞くことができるようにしていきましょう。なお、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、各領域の指導を通して指導するため、単元の目標は「国語への関心・意欲・態度」「領域の指導事項」と併せて3点セットで設定するようにしましょう。

ポイント 2

言語活動を位置付けた単元構想をする

○子どもが見通しと目的を持ち、主体的に学ぶことができるようにするために、学んだことが活用できる言語活動を設定します。相手や目的、意図などをはっきりさせ、何のために、どのように言葉を用いればよいのかを子どもが自覚できるようにします。「教材文を学ぶ」のではなく「教材文で学ぶ」ようにし、高めた国語の力を他教科等の学習や社会生活に生かすことを子どもと共有します。小学校からの既習内容を生かし、見通しを持ち、教師の指示や説明がなくても自ら学習に取り組めるようにします。

そのためにも設定する言語活動は吟味する必要があります。事前に教師が試行し、子どもの実態に合っているか、子どもに力が付く活動であるか、子どもの主体性を引き出すことができるかを確認めます。

○国語科では、言語活動をどう設定するかがポイントです。単元の全ての時間において、子どもが常に思考力、判断力、表現力等を働かせることができるようにしたり、身に付けた力を各教科等の学習や社会生活で生かすことにつなげたりする単元を構想することが大切です。

単元の構想・展開の仕方(例)



実践事例(中学校3年生)

単元名 読書会をしよう

～場面や設定を正しく理解し、人の生き方について自分の意見を持つ～

教材文「高瀬舟」

単元目標

- ・ 作品を通して登場人物の生き方に触れ、自分の生き方について考えようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ・ 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を理解することができる。(読むことイ)
- ・ 読書会を通して、人の生き方について自分の意見を持つことができる。(読むことエ)
- ・ 時代の違いによる言葉の使われ方の変化や違いについて理解する。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(7))

本時の目標(5/7時)

「高瀬舟」の読書会を通して、人の生き方について自分の考えを持つことができる。(読むことエ)

学 習 活 動

- 本時のめあてを確認する。
読書会を通して友達の見聞き、自分の考えを深めよう。
- 発言内容を確認・見直し、グループで話合う。
 - ・ 安楽死の問題について以前テレビ番組で放送したのを見たことがある。もし自分や家族だったらどうするか。考えたことは…
 - ・ 喜助は罪人として島に送られるのに、なぜ楽しそうにしているのだろうか。その人が生きてきた人生に左右されるのだと思う。
 - ・ 喜助が自分の行いに対してつぶやく言葉について私も深く考えた。疑問に思ったのは…
- グループで話合ったことを全体で紹介する。
 - ・ 喜助の行いが罪になるかどうかでグループ内の意見が分かれ、話し合った。罪にはならないと考えた〇〇さんの理由についてグループのみんなからは次のような意見が出された。
- 本時を振り返る。

こうした行為は絶対許されることではないと思っていたが、現代でも喜助と同じような境遇にある人の存在を知り、どうすべきか、どういう方法があるのか少し迷っている。

友達との交流を通して自分の考えに変化があったことを中心に書くようにさせ、評価します。

単元名は設定した言語活動が分かるようにします。～〇〇～に指導事項を入れます。

学習指導要領解の該当箇所の記号を明記し、目標を押さえます。

(読むことエ)

本時の最後にどのような内容で振り返るのか、生徒に意識させたいことを共有します。

第三次は、自分が選んだ本で読書会をします。第二次で身に付けた力を生かし、活用できることを確かめます。同じ本を選んだ者同士で、感想や意見を交流することで、自分の考えを深めます。

単元の流れ

【第一次】

1 学習計画を立て、見通しを持つ。人の生き方について考える本を選び、読み進める。

【第二次】

2 教科書の教材文「高瀬舟」のあらすじ・場面や登場人物の設定を確認する。

3・4 人の生き方について考え、読書会の準備をする。

5 「高瀬舟」の読書会をする。

【第三次】

6 読書会の準備をする。

7 選んだ本の読書会をする。